

勝声出

朱婦し

二度櫓

大阪市南区鯉谷中之丁

加島屋清助



漢書大鑑

增補 佐和利集 三編

淨瑠璃 根本鑑

一名 淨瑠璃集

浪華法書堂版



一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二

太 切 友 藻 結 良 紙 子 岸 姉 北 四 以 取 櫻

記 懐 最 叔 五 松 三 孝 す 櫻

緑

妙心寺の殿
松若川恒家殿
道喜殿の殿
新報の殿
山科の殿
大文字の殿
三股目の殿
白木屋の殿
十種香の殿
揚屋の殿
三股目の殿

(三) (廿一) (廿二) (九) (六) (七) (八) (五) (四) (三) (二)

女 小 姬 金 日 師 安 姑 妹
氏 帝 山 二十 右 達 乙 脊
歲 姪 嬌 堂 丸 以 系 白 山

妙心寺

[illegible]

是の縁ひ合親の救も
あわづふ交の透深さ
かゝる相状かあ情か
娘乳の抱ひあきりたき
き恨めとそ乃にほかり

（入ノ別一）

十兩幟

すり

相撲の男お抱に戸長
あゝりあふとあそびの
あまの枝交の独り
お婆しあふ情あふれ

致^{そふ}に^{かゝ}内^{うち}も^も子^こに^にわぬ
国^{くに}とい^い年^{とし}月^{げつ}の^のれ^れあ^あき^きも^も
そ^そよ^よふ^ふ妹^{いもうと}と^と国^{くに}と^とあ^あら^らな^なく^く
く^くの^のん^んき^きひ^ひあ^あひ^ひと^とさ^さい^いと^と
と^と復^{ふた}を^をあ^あら^らう^うい^い月^{げつ}に^にあ^あか^か

物^{もの}ふ^ふま^まら^らて^てと^とま^まあ^あれ^れは^はい^い
む^むぬ^ぬい^いか^かと^と人^{ひと}を^をあ^あら^らな^なく^くと^とえ^え
ま^まま^まも^もも^も国^{くに}の^のほ^ほろ^ろと^とま^ま
け^ける^るあ^あら^らと^と先^{せん}ほ^ほの^のと^と
か^かあ^あら^らと^とあ^あら^らな^なく^くと^とま^ま

もむとてまゝにふられ
花の初みされとやうな
花の又上ぬれとていふと
こゝろや年の深き国
通てたつたえつてもみ
つ

二
三

とてとてとてとて
花の初みされとやうな
花の又上ぬれとていふと
こゝろや年の深き国
通てたつたえつてもみ
つ

て使つてゐる母よあゝわ
づみぢもあゝあゝ
まゝとゐるし姉妹の
ん根を夜と母親の
それとあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝ

あゝあゝ

三の瀬川も浮計秋たか

八百屋前
新靴の股

サリ

ひまゝとひまゝと
あゝあゝあゝあゝ
それとあゝあゝあゝ

このふとふふのれ機
 煙あつとようん度申ふ
 何れともそふとさふと
 りとととらふんと
 りかと母の何とま実と

此の妻教ふと
 将かん

忠臣蔵
 九段目

サハリ

こふとふととる
 此の何れ

あつたあつたあつたあつた
さつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた

あつたあつた

あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた

わあやにも情氣だらあて
うらやまやうらやま
どと娘おやうらやま
おやこれおやあひさ
おやあまうておやこれ

おやこれおやあまうて
おやあまうておやあひさ
おやあまうておやあひさ
おやあまうておやあひさ
おやあまうておやあひさ

紙子仕立

大なる屋

よきものゝとて入る
兄の跡の病のむとらへ
清のてまの物ありて
果てはとて揚巻及健助

果てはとて揚巻及健助
切下より家の七枚に
今よりまの理のてとらへ
えぬとふとて大に
清のてまの物ありて

あともせむもすくもこの
かみおのまはつて目くらめ
津身^{そち}おけりひもかんて
もまうこちやうまやあも
せもわもぬれやゆあ
（久九）

救うんあかさまあ
あんこのあはれはも私
せけのあのかにも金
かまのあふもあか
たあかたはあはれ

驚かぬわがわが
 前のおひき
 ちあひてくま
 秋を

岸姫松三

サリ

かみきりたてしむ

けせとて同遊する人
 なるるるるるるる
 竹生流の時に雲
 一石の中を流るる
 流るるるるるる

勢あふあい敷のちそ中
てあふあふあふあふ
あふあふあふあふ
あふあふあふあふ
あふあふあふあふ
あふあふあふあふ

あふあふ

あふあふあふあふ
あふあふあふあふ
あふあふあふあふ
あふあふあふあふ
あふあふあふあふ
あふあふあふあふ

あはれもはのちひた
あはれもあはれもあはれ
あはれもあはれもあはれ
あはれもあはれもあはれ
あはれもあはれもあはれ
あはれもあはれもあはれ

あはれもあはれもあはれ
あはれもあはれもあはれ
あはれもあはれもあはれ
あはれもあはれもあはれ
あはれもあはれもあはれ
あはれもあはれもあはれ

想とまへるをそとち
やまゝたのこまゝにせ
先のせりて極むしげ
かゝるふありのひと
り同法なまふわと
縁

て極むを風まむと
むねて後入かへん
まふまゝ上てふ
かゝるふありのひ
と男の孫の孫の孫

勝つあひはまゐる人々を
りじ

りじ

十四番
十種番

ナナリ

あれたる後長じいといふ
般と海河の分りぬきの

果敢と心ふもたふも

あつた海河の分りぬきの

の横もあつたとあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

底邊の力もあつて可也と
つとつとつとつとつと
張つてつとつとつとつと
つとつとつとつとつと

士意揚屋殿

つとつとつとつとつと
今つとつとつとつとつと
つとつとつとつとつと
つとつとつとつとつと
つとつとつとつとつと
つとつとつとつとつと

男とてんろふもむさうせ
酒席るんぞひひやねろ

市所楊三

まゝなるやへもとのを
押扶衣からぬの袖ふ

たすけの袖の襟ひの
保持れ袖のぬ袖の者の
男とてんろふもむさうせ
酒席るんぞひひやねろ

何事ぞをねねと交年十年
雲の秋も冬人の暮の秋
の月夜の秋秋多雨のそ
中ふ八勝りは足あところ
かあそ人もどきあをを

大ノ十九

つねの松と松のあゆ
霧の秋の秋の秋の秋
わつらうのころひ藤ふ
つや人のまふふ人
雲の秋の秋ひるあを

ちやまたに抱きつゝ
 我子ふゆじいば抱ね
 縁の情けいもた妹の
 惣ふらん人

夕霧 伊勢
 吉田屋

次子

こまたへでも来でも
 ちやまたのうらな
 持たなごうあひさす
 そとみ神もあつらん
 夕霧 伊勢

花のいふのひこまが
それと氣がふは清きを
かほるはあそ人の情も
せのき理も由はせぬの
つとまのきもいふはな

の味はあまもあつた
あふれをいふは
かまふかあのをいふは
かまふはあつた
やとあつたをいふは

首尾ふ首尾を結ぶれ
結ぶ力と力とのあはれ
石橋のそとに平樹んとは
外それらに結ぶるは
はたきききききききき
はたきききききききき

第百廿二

てうんのみまゝわあ
われれれれれれれれれ
るるるるるるるるる
七つ七つ七つ七つ七
の状にもほれあはれ

おとも人の諸ぬの私心
恨つあつたにかなふも恨
るゑまふれぬわづらふ
二年都ふるを信ぜり
とすの初逢しまぬふい

久ノホ三

物ひ腹裏さう国ふ人
ぬるふ来と結来とけと
わなまて湯と風つめて
ふぬこに遊てこぬふ
あふこに遊てこぬふ

ふじいささこの私
んちつてはてしなく
撫て撫ていかに
てはるきやみひれん
すやうすやうんや

（入る）

相次つておれん
をいささかおれん
おれんおれんおれん

おれん

三股目

サリ

きしよ運あふ漸せといふひん婦えと
船ふねもの花はなをはな并ならふふ舟ふねも
橋はしももとと板いた乃などどわわるる風ふう
お敷おきななのの橋はしをを平へいたたままととる
あまあまのの船ふねももいいひひひひとと
ふん

久く我われれあありりととややととああふ
ああのの船ふねもも船ふねももあありりとと
とと船ふねももあありりととああふふああ
んんががののいいとといいふふ後ごろろ河か
ええあありりとといいふふあありりととああふふ

かきあはれいふ病氣と
ひきあはれいふ病氣と
秋の夜も仲情ふあて
あふりいふお雛あはれ
あふりいふお雛あはれ
あふりいふお雛あはれ

あふりいふ

あふりいふお雛あはれ
あふりいふお雛あはれ
あふりいふお雛あはれ
あふりいふお雛あはれ
あふりいふお雛あはれ

あふりいふ
あふりいふ

あふりいふ

世の娘はついでに
名をわねの娘は
おとこはついでに
おとこはついでに
おとこはついでに
おとこはついでに
おとこはついでに

おとこはついでに

おとこはついでに
おとこはついでに
おとこはついでに
おとこはついでに
おとこはついでに
おとこはついでに
おとこはついでに

波三秋のりやんあ
まはふさぬとま
くても竹垣の邊を渡
る人も国もほたれ
ふまぬとあひねる
か

（八つ廿八）

海女役のりやん
か

各連系
三段目
さえん

舟もあつても願どか
中ぎりのまふれ
父あめりか利に
か

想ひて世のまゝも
別はほほゆる国なる
そふけのひかき進めて
果すのちとて親戚
ある世に人となつて
あふれん

（おのれ）

けろくろりさうはと
おれは御ひにまた入
れ

かん
長屋の世帯屋の段
サリ

私ものつてわかれ
あふれん
あふれん
あふれん

のほねももんごうぬて
びけた可也敷れいれ
過なりても山ふつと
ふて何ふもふとて
おのねももんごうぬて

八ノ三十一

ぬねももんごうぬて
おのねももんごうぬて
ふて何ふもふとて
おのねももんごうぬて

あそびに

目言九推櫻
三陵目

サハリ

櫻のひとまゝさひひ
びつぽうのまゝのま
まゝはまゝとていふ

八ノ一

ひまゝのまゝのまゝ
まゝのまゝのまゝのま
まゝのまゝのまゝのま
まゝのまゝのまゝのま
まゝのまゝのまゝのま
まゝのまゝのまゝのま
まゝのまゝのまゝのま
まゝのまゝのまゝのま

甲斐もあふ海に反るわれ
難別とあふもつむごと
のむとわさふえまふと

此三間堂棟東

かんど

和歌の陣ふなむとさる

八ノ三

一木様とふ玉海とふ
わ松ふゆふとふとふ

全 奥音韻

ひるんかふ推ふ共の
の柳と柳とふえん思の

柳の蔭に暮るるをみり

子ぐヨイク
ヨイ子

睡山姥

殿切

あつてふ満ちてう
こもるふとてふあれ

八・三

他玉のまのうへへ
ゆきぬきとて
邪へが我りてと
とての三子とてのふ
すも娘をわとてく

あきつてきりぎりす
 秋の夜は長し
 寝るも寝るも
 ぬくもぬくも
 ぬくもぬくも
 あきつてきりぎりす

大正

おはき
 郎美 鰻谷

あきつてきりぎりす
 秋の夜は長し
 寝るも寝るも
 ぬくもぬくも
 ぬくもぬくも
 あきつてきりぎりす

のほもねびかすまぐ五
 おろさねふす極しあどく
 おせといぬきひあひこ
 ぬれもんかふふあまあう
 うもあつてくわあけ

八ノ廿八
 八ノ廿八

我女は国をえまふさ
 まあふそのおねあれい
 とあさかれいことあわさ
 のみばはれあふまのま
 ことねあふいふさあふ

ぐわんやていばまのひ
 母やうのまのうま
 あやわねやわねま
 ゆとまのいふま
 さいまのまのま

八ノ廿七

今度まのまのま
 まのまのまのま
 たるまのまのま
 何てまのまのま
 いまのまのまのま

八ノ廿八

同治十九年八月六日出版御届
寺澤久萬七
加島屋清助

うららき



明治十九年八月六日出版御届
明治廿六年七月一日訂正増補刷
明治廿六年七月七日發行

校閱 豊澤松太郎

著作者 寺澤久萬七



大阪市西區富田南通二丁目
二番屋敷

發行兼 大阪市南區鰻谷中之丁
印刷者 加島屋清助



